

随想

宝物の試合

愛知淑徳高等学校体育科教諭 福田一喜



サッカーの女子ワールドカップ(W杯)ドイツ大会で、日本代表の「なでしこジャパン」は三大大会ぶり三度目の優勝を狙ったアメリカを、2対2の激闘の末、PK戦を3―1で制して初優勝しました。勝利の笑顔が弾ける彼女達の姿を見ていると、泣き虫の僕は涙が溢れ出して止まりませんでした。正直、W杯で日本代表が優勝するなんて、今でも信じられません。

巧みな采配で優勝に導いた佐々木則夫監督にとっても、たとえ来年のロンドンオリンピックで金メダルを取ったとしても、今回の試合は忘れられない宝物の試合になることでしょう。あとでW杯のことを考えると、きつとグウーとくる思いがこみ上げてくるに違いありません。

最後まで諦めなかつた勇氣と感動をありがとう。

W杯とは比べものにならないけれど、僕にも宝物の試合があります。それは僕がバレーボール部の顧問をし

ていた昭和57年の愛知県高等学校バレーボール選抜大会(春の高校バレー)の決勝戦です。

その試合の対戦相手は、県立豊丘高校でした。僕にとっては全国大会初出場の夢が実現するかもしれない大切な試合であり、必ず勝つんだという強い決意を持って臨んだ試合でした。

僕は試合前、選手達に一つの指示を出しました。それはユニフォームの下のお腹の部分に、「勝とう勝とうは負けの元! 大きな声を出して走り回ろう!」というメッセージをマジックで書かせるというものでした。

それは試合中、プレッシャーに負けずに平常心でプレーできるよう、試合中にはそのメッセージを忘れないようポンポンとお腹を叩いていればいい、という作戦だったのです。

選手も僕も朝からかなり緊張していましたが、いざ試合が始まると作戦が功を奏したのか試合はスムーズに運び、セットカウント2対0で勝利することができました。

試合後は選手達から胴上げをしてもらい、その時も僕は涙が止まりませんでした。

その試合はテレビ中継されていたので、学校の先生方からもたくさん祝福メッセージを頂きました。その時の

事は今でも忘れられません。

その後、東京都体育館で行われた全国大会では、ベスト8をかけた試合で敗れてしまいました。当時チームのエースだった広紀江選手が全日本バレーボール協会の方々に実力を認めてもらい、のちに全日本女子バレーボールの日本代表に選出される足がかりになりました。広選手は、ロサンゼルス五輪に出場し、銅メダリストとなりました。

今でも県大会の決勝戦の事を思い出すと、感動がこみ上げて胸にグウーとくる何かを感じます。僕にとつての宝物の試合です。

現在はバレーボール部の監督は引退しましたが、これからも宝物になる試合を求め、スポーツと向き合っていこうと思っています。

今の目標は、趣味であるゴルフでエイジシュート(自分の年齢かそれ以下のスコアでラウンドする事)が目標です。毎日練習をしています。80台のスコアはなかなか難しく、90台でラウンドできれば上々といった腕前なので、エイジシュートを達成するためには90歳になってもゴルフが続けられる健康な身体であり続けなければなりません。

90歳を超えて、また宝物の試合ができるよう、自分を信じて頑張ります。